



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

ベトナム子ども基金通信

No.54
2011.10.8



光武さんご夫妻のご寄付で建設されたドンタイン小学校で、今年も光武さんからノートが寄贈されました(2011.9 ロンアン省)

5月、私は仙台空港近辺の住宅地跡にいました。そこには、跡形もなくなった家屋、1階部分がさらされた家屋、がれきと化した光景が広がっていました。そのまったく人気のない場所で、普段はあまり気にも留めない人の「気配」を強く感じました。道具としての機能が損なわれた家財道具や建屋に、それらを使っていた人たちの生活や思いがむき出しになったかのように感じたのです。

今回の震災には、国内外からたくさんの方の支援金、物資が寄せられました。それらは被災者にとって、当面の生活の支えとなったことでしょう。しかし、いまだ戻ることのできない日常を取り戻し、これ

からの生活を支え続けるには、残念ながら十分なものではないでしょう。それでも、それらの物資に込められた支援者の思いは十分な励ましとなったはずです。

私は、今回の大震災で、自然の威力と、それに対する物質(モノ)の無力、はかなさを感じました。しかし、普段はモノの背後に隠されている(かのように見える)、人と人とのつながり、そこに込められた思いも感じ取ることができました。モノが本来持っている人と人とを結びつける力、思いを伝達する力…モノとは人をつなぐ重要な手段であったのだと。

遠い昔、小学校の入学祝いに買ってもらったランドセ

ル、中学の入学準備に用意された学生服。うれしくて、私は何度も箱から出しては眺めていました。そこには新たな生活、新しい友達との出会いへの期待、そして両親の愛情が込められていたのです。

ベトナムの子どもたちへの私たちの支援は、モノ(カネ)の単なる便利さを超えて、私たちとベトナムの子どもたちとのつながりを深め、思いを伝えているのだと思います。そして、ベトナムが今後ますます物質的に豊かになっていっても、そのモノの持つ本来の力を失うことのない発展をしてほしいと思います。

くろは ひろし
(黒羽 宏)

里子を訪ねて

「恩返しをしたい」。小さいけれど恩返しをしたいと思ったことが、ベトナム子ども基金に加入するきっかけとなりました。20年前の私は韓国からの留学生でした。日本語学校と大学を卒業し、現在は永住者になりました。学生の頃はいろいろな方や団体からの奨学金で学費と生活費を支援していただきました。今でも私を支えてくれた方々とは仲良くさせてもらっています。いつも恩恵をもらっているばかりなので、いつか恩返しをしたいと思っていました。ベトナム子ども基金と出会ったのは就職し落ち着いてきた2004年でした。ベトナムの気候にもよく似た暑い夏の週末、日比谷公園でやっていたイベントから持ち帰ったチラシと恩返しが重なったのです。

今年の7月にベトナム子ども基金を通じて青葉奨学会を訪ねて初めてホーチミンに行ってきました。ホーチミンは蒸し暑く、街を少し歩いてはホテルに戻りエアコンにあたるという日々でした。ホテルの前で涼んでいるとよく宝くじ売り、そして物乞いまでが寄ってきて、63階の高層ビルの裏側を見たような気がしました。ベトナム4日目でホーチミン市の隣のロンアン省にいる里子のフィー君に会いに行きました。初めはホーチミン市内まで来てもらっておい

しい食事と談話を楽しみたいと思っていました。旅行経験と収入が少ない彼がホーチミンまで来るのは難しいということに後から気づきました。私は勉学に励んでいる優秀なベトナム青年とお会いできるという軽い気持ちでの訪問でしたが、現状は私の想像を大きく超える厳しいものでした。毎年送ってくるフィー君の履歴票を通してある程度彼の経済状況は予測していましたが、目の前の現状としてのものとは大きく隔たりがありました。

フィー君在住の地区奨学会からフィー君の自宅を訪問しました。彼の家は幹線道路から舗装されていない細い道の周りに民家が点在する草地にありました。近所の家は決して大きくはありませんが、タイルが張られ、きれいに塗装されていました。

それに比べ、父親の仕事場である牛小屋の隣に、ホーチミンの慈善団体からの援助で建てられた新築の家は、周りを囲み屋根を上げただけの質素なものでした。部屋が2つでお父さんと2人で暮らしていました。井戸水とたき火で炊事・洗濯をしていて、排水設備はもちろんありませんでした。それでも新居に引っ越す前は空いている牛小屋で生活していたらしく、新しい家に満足している様子でした。フィー君の父親は目がよく見えないため普通の職に就けず、家の隣にある牛小屋の牛3頭の世話をして毎月120万ドン（約5千円）の収入を得ています。母親は早くに亡くなり、妹は心臓病のため学校を辞め、縫製技術を学びに親戚の家に行っているとのことでした。後から考えてみると、



里親とはいっても初対面の人が自宅に入りあれやこれやと生活の質問をするのは、フィー君の父親と本人はどう思っていたのだろうかといういろいろ考えさせられました。

フィー君の自宅訪問後、同地区の奨学会の先生、フィー君を指導している先生らと一緒にお昼を食べに近くの大通りに面しているレストランへ出かけました。レストランのホールには高校生くらいのお兄さんが働いていました。アルバイトの彼は私たちのテーブルに食事を運んでは自分で買って来た宝くじ（最高当選額1万円）をしきりに勧めてきました。レストランのアルバイトだけでは十分な収入が得られないのだと思いました。また、フィー君も宝くじ売りのアルバイトをすることもあると聞き、彼の普段の生活をうかがい知ることができました。レストランでの会計は8人で35万ドンと安かったのですが、お父さんの収入の3分の1だということに気づき複雑な気持ちになりました。

ベトナムでの大学の進学率は10人に1人という難関です。また大学生はアルバイトをしないらしいです。将来経済管理部門に進みたいフィー君は現在高校2年生で将来のことをどう考えているのだろうか。学校、家事、アルバイトそして勉強と限られた時間の



中で難関である大学試験に合格できるだろうか。大学に合



格したとしても授業料など生活費はどうするのだろうかと心配になりました。

今回のベトナムへの旅は、履歴票では把握しきれない里子の現状と一生懸命生きている里子を再確認できました。毎年1口2万円と日本ではそれほど大金ではないけれど、ベトナムの子どもたちには欠かせないものであるということも確認できました。また街で

宝くじを売っている子どもたちがまだまだたくさんいます。その子どもたちが平等な機会を得られるときまで私の「小さい恩返し」を続けたいという気持ちをより強くさせられました。

カン キョンソン
(姜 炅成)

里親基金会員

ベトナム調査旅行についての報告

7月上旬、青葉奨学会との事務的な打ち合わせおよびスキャナー設置の事後調査、チャビン省の「愛の学校」支援の調査のためベトナムを訪れたので報告します。

青葉奨学会ではまずハウエ先生を訪ね、後述のチャビン省の支援方法について確認しました。続いて事務責任者スアンさんと、日本とベトナムとのやりとりで生じている懸案事項について話し合い、よりスムーズな運営のためのこちらの要望を伝えました。具体的な内容としては、青葉奨学生の採用基準の確認、青葉奨学会の会計報告を毎年こちらに送ること、黄梅基金の報告や手紙のやりとりについて、現在の問題点を説明し会員の皆さまが納得できる状況に改善するよう、双方で取り組んでいくことを確認しました。

7月11日、12日は調査のためロンアン省とチャビン省を訪問しました。ロンアン省はホーチミン市に接しており、子ども基金でも多くの奨学生を担当しています。スキャナーは里子からの手紙を原本が届く前に、日本で先取りして翻訳を進めることを主な目的として設置しました。チャビン省はメコンデルタ観光で有名なベンチェ省よりさらにメ

コン川の河口に位置しており、中心部より車で10分走れば、濃い緑のジャングル、茶色いメコン川の中、家が点在する風景が広がっていました。

スキャナー設置事後調査

まず、設置したスキャナーの使用状況を確認するため、ロンアン省ベンルック地区の中学校を訪問しました。出迎えてくださった校長先生にスキャナーの使用状況や学校のこと、青葉奨学生について説明を受けました。現在、この中学校には566名の生徒が在籍し、そのうち7人の生徒が青葉奨学生として採用され、子ども基金が担当しています。授業は、午前、午後2部制で行われ（ベトナムでは一般的に2部制）、午前の授業は7時10分に始まることでした。年間の登校日数は37週で、主な休みは、旧正月を挟んだ10日間と夏休みだそうです。新学期は通常9月とされていますが、こちらの学校は試験に備えて復習をするために8月17日より新学期が始まっています。

次に、青葉奨学生の選定については、担任教師が、成績や生活態度で条件に当てはまりそうな生徒を推薦し、校長先生が、実際に子どもたちの

家庭を訪問して本当に奨学金を必要としているか、経済状況を確認するそうです。自分の学校だけではなく、担当している地区の子どもたちの家庭も訪れ、状況を確認しているとのことでした。

学校に通ってくる子どもたちの経済状況はさまざまで、最近、近隣で工業団地が造られているため土地を売り豊かになった家庭の子どももいれば、奨学金を必要とする貧しい家庭の子どももいます。

その後、普段、青葉奨学会の事務を行っている部屋を見学しました。校長先生が、自らの学校だけでなく地区全体の青葉奨学生をとりまとめているとのこと、職員室の隣のパソコンが置かれている部屋で、地区の学校や青葉奨学会と連絡したり、手紙を送ったり事務作業をするとのことでした。スキャナーは、カギ付きのロッカーに保管されており、その理由を尋ねたところ、訪れたときは夏休みで、普段学校に人がいないため盗難防止のためと、土ぼこりがひどいので故障を防ぐためとのことでした。スキャナーの使用については、当基金スタッフが設置時にすぐ使用可能なように設定まで行ったため、面倒な操作が必要なく使用できているとのことでした。

スキャナーを設置後、実際手紙を青葉奨学会に1通スキャンして送信し、青葉奨学会事務局でも受信したとのことでしたが、その後、夏休みに入ったため、送る手紙がなく、まだ十分に活用されていません。新学期になると例年多くの手紙が送られてくるので、その時点でスキャナーが活用されているか、ほかの地域も含め青葉奨学会を通じて確認していきます。各地の奨学会、および学校でスキャナーを利用してもらうことは、青葉奨学会の事務作業の負担を軽減することにもつながるので、スアンさんにも現地でスキャナーの使用頻度をチェックし、適切に活用してもらうよう指導をお願いしました。

「愛の学校」支援について

5月の調査訪問で「愛の学校」の実情報告を受け（詳しくは通信53号に掲載）、よりよい学習環境で子どもたちが勉強できるよう当基金で支援していくことになりました。支援の方法については当初、会員の皆さまに対して寄金を募ることも検討しましたが、支援規模が比較的小さいため青葉奨学会のホウエ先生と話し合い、また運営会議で話し合った結果、今年度の学校改修事業として行うことに決定しました。

「愛の学校」というこの学級は1950年にサウ先生のお母さんが始められました。当時



から今まで、ずっとボランティアで教えているため、私財を切り崩し、家の一部を人に貸して受け取る賃料などで生計を立てているとのことでした。私たちが訪れたときは、



午前7時から9時までの6、7歳児の読み書きの授業の最中で、12人の子どもたちが教室で声をそろえて教科書を読んだ後、課題を仕上げると1人ずつサウ先生の机に並び、答え合わせをしてもらう自分のノートをのぞき込んでいました。子どもたちはそれぞれ学校に通いながら、予習復習のために通う子もいれば、こっただけで学ぶ子もいますが、共通しているのは経済的に貧しいために十分な学習機会を得られないことです。

学校に通いつつも「愛の学校」に通う子どもたちは、両親が仕事で忙しく家庭で十分勉強を見てもらうことができませぬ。6、7歳児の授業というのは6歳の子は1年間このクラスで勉強をして学校に入学します。ベトナムでは幼稚園に通えば、幼稚園で読み書きを習いますが、経済的に幼稚園に通わせる余裕のない家庭で育つ子どもたちは、小学校に入学した時点で遅れをとってしまっていることとなります。また、両親の離婚によりどちらにも引き取られなかったため、出生証明書がなく無戸籍のまま正規の学校に通えず、サウ先生のもとで学ぶ子どももいます。

子どもたちの通うクラスは、サウ先生の自宅の一室を開放して授業を行っています。写真の教室は、机や椅子といった備品も含めサウ先生のお母さんが最初にクラスを始めた当時より使用しているとのこと。教科書を広げている机は、鉄骨の上に木の板を乗せただけの簡易なもので、固定されていない板は片手で簡単に持ち上がります。昔のものなので鉄骨は丈夫ですが、足元はさびつき朽ちてボロボロ剥がれる状態でぐらついていました。椅子も木の板に足を4本くっつけただけの簡単な作りで、一番小さい6、7歳児体がやっと収まるくらいなので、もっと大きな子どもたちは不便なはず。教室の



授業で先生が使用する黒板も、黒板用の塗料が剥がれ表面がデコボコで、文字を書きづらく日光を反射して子どもたちの席からはとても見づらい状態です。

私たちが訪れたときは天気がよく、教室の3つの窓を開け放して勉強していましたが、窓の大きさが小さいため、薄暗く感じました。加えて、雨期の今は、滝のような雨が降ると窓を閉めるため、室内は天井に1つだけある蛍光灯の光を頼りに勉強しなければいけません。これでは勉強はできるようになっても目を悪くしてしまいかねません。

教室の写真の奥のほうに大

きなビニール袋が積まれています。この中には寄付された服がいっぱい詰まっています。服だけではなく、勉強に使う教科書も寄付してもらったものを使用しています。同行した青葉奨学会のスアンさんは、子どもたちの教科書を見て、内容はいいのだけれど、現在使われているものではないと教えてくれました。残念なことに、今のところサウ先生の後継者がいません。また、先生自身が72歳と高齢であり、授業と授業の合間には横になって休みながらこの学級を続けているとのことでした。このような状況ですので、サウ先生ご自身は、「設備はあるもので十分で、立派な家を建てるお金があれば、子どもたちの教育に使うほうがいい」との考えです。確かに大金を投じて校舎を建てたところでこの先、使用されなくなれば無駄になってしまいます。今後、後継者探しなど青葉奨学会でも協力できることは行いたいという考えですが、ボランティアで、複式学級の子どもたちを能力別に教え分けられる人材を見つけるのは難しいと言わざるを得ません。

しかし、小中学校の就学率はほぼ100パーセントに近く、公立高校にも80パーセント以上の生徒が進学するベトナムの状況を考えますと、初等教育でのつまずきは、今後の子どもの人生を決定づけてしまうことになるといっても過言ではありません。



せめて、新しい教科書やきちんと教材を広げられる机、落ち着いて座れる椅子、電気を増やして室内を明るくするなど、少しでも子どもたちが勉強しやすい環境を整えることで協力していきたいと思えます。

サウ先生のクラスで学び、現在は社会人として立派に活躍している生徒の話や、また教え子が訪ねてくるのが楽しみという先生、最後に先生が教え子たちに望むことを尋ねたところ、国家や社会の役に立つ人間に成長してほしいということでした。まだ戦争の動乱期から教育に携わり、多くの子どもたちに接し、熱心に子どもたちを教え続けてきた先生のお母さんと先生だからこそその言葉だと感じました。今後の支援に関しては、資金を前述の通り子ども基金で負担し、実際の備品の調達は、青葉奨学会が行います。支援が完了次第、詳細を報告します。

サウ先生のお話を伺った後、クラスで学ぶ1人の少女の家を訪ねました。タオちゃんという7歳の少女の家は、メコン川の水面がすぐ目の前に広がる場所に建っていました。正直、日本人である私の感覚では、大雨が降ったら簡単に浸水してしまうのではと心配になるような場所ですが、これまでそのようなことはなかったとのことでした。集落のどん詰まりまりのような場所で、家の前はごみ捨て場のような状態でした。

彼女の家は、「愛の家」というホーチミン市の団体の支援を受けて建てられたものですが、周りにコンクリート造りの家が立ち並ぶ中、竹や木を柱と梁はりに、ヤシ、あるいはバナナの葉を壁、屋根などに利用して作られた家は、壁が剥がれ落ち空がのぞいていま

した。「家に帰ってきたら何をするの」と尋ねると、家の奥にあるままごとセットで遊ぶのだと見せてくれました。

またおばあさんの手伝いをしたり、炊事の燃料となる木切れや、枯葉などを拾ってくるとのことで、確かに、家の片隅と外にたくさんのまきなどが積まれていました。時々



これらの燃料を売りに行くそうですが、大した金額にはなりません。

タオちゃんはサウ先生のクラスに通い始めて2年目ということですが、軽い知的障害があり、勉強についていくことは難しいそうです。加えて、両親の離婚で祖母に引き取られ、また無戸籍のため正規の学校には通えません。いろいろな問題を解決して、正規の学校通えるようになることが一番望ましいことではありますが、現実として、勉強を続けるためには、一日も長くサウ先生が健康で教室を続けていかれることを願うしかありません。

さかもと りょうこ
(坂本 亮子)

事務局運営委員



ベトナム女性に流行のベリーダンス

ベリーダンスは“おなか踊り”と呼ばれる、中東各国に発祥した芸能で、スラックスまたはマキシというバックレスを着て、女性の美しい肢体や身振り（特におなかの動き）を巧妙に見せる舞踊です。

発祥初期には、ベリーダンスは諸侯や貴族層だけが楽しむものだと思われていたそうです。しかし千年がたった現在、ベリーダンスは女性の美しさを賛美する芸能となり、アラブ18か国の女性だけでなく、世界各国、各地域にも人気があるものになりました。ベトナムでは2006年の初め頃、韓国の有名なダンサーのAra Wangさんによって伝えられました。それから5年、ベリーダンスはいまや一番人気があるダンスのひとつになり、ベリーダンスの勉強は最も流行しているものとなりました。例えば、現在ベトナムには3つの大きなベリーダンスセンターがあり、数十の教室で数千人の学習者がいるのです。

ベリーダンス教室の生徒は、年齢にかかわらず、ほとんどが女性で、学生や主婦、OLなどです。いろいろな生徒のニーズに応えるため、各センターは常にレベルごとのコースを交替で開いているので、練習希望者が自分の都合に合ったコースを探すのは簡単です。



もし、皆さんがベトナムに來られたら、ベトナムの女性たちの日常会話に、ベリーダンスの話題が出てくることに驚かれると思います。それほどベリーダンスは、ベトナムでは今まさに流行中といえます。それでは、なぜベリーダンスはそんなに女性からの注目を浴びているのでしょうか？ ベトナムの女性たちに聞いてみましょう！



ベリーダンスは魅惑的な音楽、舞踊およびきらびやかな衣装で人気がある

ゴック・アインさん(19歳・学生):「最初、友達からよく聞いていたので好奇心があって練習を始めました。しかし、練習が始まってからは本当に好きになりました。その理由はアラブの魅惑的な音楽や、きれいな舞踊、きらびやかな衣装にもあります。それに、ベリーダンスは決められた動作の中で踊るだけではなく、踊る人それぞれの感性に合った動きができるので、演技者のクリエイティビティを高めるのです。大学の授業が大変だった後、ベリーダンスのカラフルな空間に浸ると、とてもさわやかな気分になります」

チェンさん(30歳・会社員):「私はある日系企業の工場に勤めているので、大変仕事のストレスを受けています。それに、ほとんどの勤務時間は座っているのです、ウエストが



勤務時間後のコースはOLに人気がある

太くなってしまいました。それで自分の体つきを改善し、またリラックスするためにベリーダンスを選びました」

ハーさん(3人の子供がいる):「子どもを生んだ後に自分の体つきが恥ずかしくなってきました。家庭の仕事や子ども3人を育てるのにほとんどの時間を取られてしまうので、エアロビクスなどやりたくてもなかなかできません。今回は珍しく空いている時間にできるベリーダンスのコースを見つけたので申し込みました。自信を回復してきれいな体つきになれるときを楽しみにしています」

女性たちの話から、どんな年齢でも、どんな仕事をやっても、女性たちは快適な生活を過ごせるようにベリーダンスを選んだということが分かってきました。

ベリーダンスを練習する人が増えるとともに、教える人



ベリーダンサーはみんなきれいな体つきである



クインさん・ベリーダンス先生

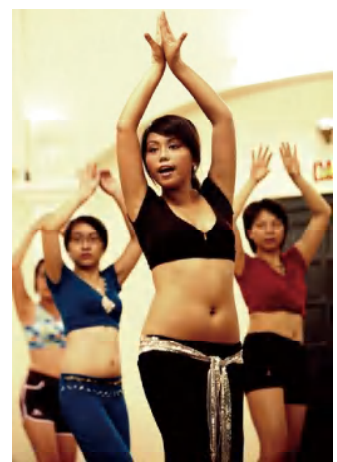
も増えています。クインさん(19歳)はLife Art Studioの先生のひとりです。「私は3年前にベリーダンスを勉強し始めました。私はベリーダンスを本当に大好きになり、毎日やっています。しかし、自分だけでそんな面白い芸能をや

るだけじゃなくて、たくさんの人にも参加してもらえよう、一生懸命生徒にその面白さを伝えています。他のダンサーと協力してベリーダンスが一番人気のある芸能になることを目指していますよ！」

もしベトナムに来る機会があれば、ベリーダンスの教室を見学するようにスケジュールを調整してください。あなたもあのベトナム女性の注目を浴びている見事な舞踊を気に入ってしまうと思いますよ。

※参考住所：

Life Art Studio
Room No.1103-187 Building
-Lang Ha str.-Hanoi.



ゴックさん・ベリーダンス先生

ルオン・ヴィエット・トゥ
(Luong Viet Thu)

ハノイ在住。日系企業勤務。スタディーツアーでは現地案内・通訳を彼女の学生時代からお願いしています。

ベトナムの生徒たちを紹介します！

私がベトナムと関わるようになって、ちょうど6年が過ぎました。途中1年間は日本に帰国しましたが、残りの5年間はここ、ベトナムの首都ハノイで日本語教師として過ごしています。今日は日本語を学ぶベトナム人の皆さんについて、特にベトナムの中学生と高校生についてご紹介させていただきます。

ベトナムの日本語教育事情

2009年の調査ⁱによると、ベトナムで日本語を勉強している人は45,000人近くに上り、これは世界で第8番目に



ベトナムの高校生

当たります。他の国々を見ると、小学校～高校で日本語を勉強している人が多いのに対して、ベトナムは大学生や社会人の割合だけで9割を超しており、他の国と逆の構造になっていることが特徴的です。

私はベトナム滞在の最初の3年間は大学生や社会人に日本語を教えていましたが、今は残りの1割弱の学習者、ベトナムの中学校や高校で日本語を勉強している生徒たちに、ベトナム人の先生と一緒にティームティーチングの形で教えています。ベトナムでは2003年に日本語が中学校の課外授業として、そして2005年からは正式外国語科目として日本語教育が開始されています。つまり、日本の中学生や高校生が学校の外国語科目で「英語」ⁱⁱの授業を受けるように、ベトナムの中学生や高校生も「日本語」を外国語科目として勉強しています。

ベトナムでは「英語」「フランス語」「中国語」「ロシア語」そして「日本語」が中学校、高校の正式外国語科目として認められており、2011年9月現在、中学校と高校を合わせて4,000人以上の生徒が日本語を選択し、学んでいます。

ベトナムの中学生・高校生

日本の伝統的な文化にも新しい文化にも興味津々の生徒たち。老若男女を問わず「ドラえもん」は今もとても人気があり、「名探偵コナン」や「NARUTO - ナルト -」等も日



「歌の祭典」で歌う中学1年生



日本人の高校生と交流する生徒たち

本語を勉強していない中学生、高校生にも広く知られています。時々、日本人の私でも知らないような漫画やアニメについて生徒から聞かれることもあり、いろいろリサーチをしなければ、と思わされることもあります。一方、日本のアイドルは正直なところ知名度があまり高くなく、韓流ブームに押され気味です。韓国のアイドルグループの歌う日本語の歌を聞いて、うれしそうに日本語で口ずさんでいる生徒の姿を見かけることもあれば、生徒から「先生、このグループの中で誰が一番好きですか。」と韓国のアイドルグループのスナップ写真がついた筆箱や下敷きなどを指差して聞かれることもあるため、韓国のアイドルグループについても研究しておかな

ければ、と思うこともしばしばです。彼らにとって日本の韓流ブームは日本と韓国の両方の国について知るいい機会になっているようです。また、私自身も彼らの興味のおかげで、中学生や高校生が興味を持ちそうな話題を探しているうちに、ベトナムのアイドルについて詳しくなり、いつか越流ブームが来ないかな…と密かに思っています。

今年、私は高校の最終学年

長しています。卒業が近づく頃には、環境問題やごみ問題など、社会的な事柄に関することについても日本語で考えたり、話したりすることができるようになっているでしょう。学年が上がるごとに日本語を使ってできることが増え、日本語を勉強することで生徒の日本や他の国々に対する視野が広がっていく様子を見られるのは、教師として喜びです。



茶道に興味を持つ生徒たち

である高校3年生を担当しています。中学1年生で初めて日本語を勉強した日は当然のことながら、「こんにちは」も知らず、ひらがなの「あ」の字も書けなかった彼らですが、高校3年生になると日本語で自分の意見を交えたスピーチができるようにまで成

- i 「海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年 概要」国際交流基金
- ii 英語以外に中国語や韓国朝鮮語等を選択できる学校もある。

よこやま なおこ
(横山 直子)

国際交流基金ベトナム日本文化交流センター日本語専門家。2009年より現職。ベトナム青葉奨学会の里親会員。



〇×クイズに答える生徒たち

2011年定期会員総会議事録

特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

1. 総会の種類 2011年定期会員総会
2. 招集年月日 2011年6月4日
3. 開催日時および場所
 - (1)開催日時 2011年6月18日(土曜日)午後2時
 - (2)開催場所 アジア文化会館・教室 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館
4. 会員数および出席会員数
 - (1)会員数 248人
 - (2)出席会員数 223人(本人出席15人、委任状出席208人、書面出席0人)
5. 議長の氏名
高橋強

6. 議長選任の経過

定刻に至り司会者 樋川好美が開会を宣し、続いて理事長 近藤昇が挨拶した。司会者から本日の2011年定期会員総会は定足数を満たしたので有効に成立する旨を告げた後、議長の選出について諮ったところ、満場一致をもって高橋強が議長に選任された。続いて議長から挨拶の後、議案の審議に入った。

7. 議事経過の要領およびその結果（議案詳細は前53号に掲載）

第1号議案 2010年度事業報告付議の件

第2号議案 2010年度会計報告財産目録、貸借対照表および収支決算書付議の件

議長は、事業報告の内容を近藤に説明させた。続いて坂本から、会計に関する報告があり、監事岡村から会計書類は、綿密に調査したところ、法令に照らしいずれも妥当であることを認めた旨を報告した。議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第3号議案 2011年度事業計画案付議の件

第4号議案 2011年度事業収支予算案付議の件

議長は、事業計画案の内容を近藤に、収支予算案の内容を坂本に説明させた後、これを議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決決定した。

第5号議案 役員人事案

議長は、理事全員が2011年5月31日をもって任期満了につき、この改選方を議場に諮ったところ、満場異議なく次の者が理事に選任され、被選任者はいずれもその就任を承諾した。

理事 近藤昇 (再任)
 理事 岡村進 (新任)
 理事 小木曾友 (再任)
 理事 萩野正司 (再任)
 理事 南康雄 (再任)
 理事 奥山義夫 (再任)
 理事 黒羽宏 (新任)
 監事 黒川厚雄 (再任)
 監事 樋川好美 (新任)

以上ですべての議案の審議を終了したので議長は閉会を宣し、午後2時30分に閉会した。

ベトナムからの手紙

日本に留学して、働きながら学ぶのが夢

レ・アン・グウェット

いつも里親さまから気に掛けていただけて、とてもうれしいです。お元気ですか？ お仕事や毎日の生活で、面白いことがありましたか？ 里親さまや皆さんが、自分の望みをかなえられるよう、いつも祈っています。

青葉奨学会を通じて、奨学金を続けてくださることに感謝しています。とてもうれしいです。ですから、自分の将来のためにもっと頑張る決意です。私には、この手紙の中で里親さま

にお知らせしたいひとつの目標一ひとつの夢があります。それは、日本に留学して、仕事をしながら学ぶことです。里親さまにお会いして、桜の国、富士山の国へ行き、茶道を楽しんでみたいです。そして、日本の学校で心理学を学び、日本の心理カウンセリングセンターで実習をしたいです。特に児童心理についてです。日本の父母や教師による教育（心理学的な）について理解を深め、ベトナムに戻ってベトナムの子どもたちを手助けするため、いろいろな見識を得たいです。そして、物事の処理の仕方など、いろいろな面から日本人を知りたいのです。

しかし、日本へ行く目的は、最初から具体的にこのようなものだったではありません。初めは、日本へ勉強に行き、自分の試練のために仕事を探すというものでした。その後、地震

と津波の被害、放射能に耐え続けている日本人の行動や仕事ぶりを見て、私の目的は、より具体的、明確になりました。この夏、もしできたら、日本語を勉強します。私はやってみます。里親さま、手伝ってくださいませんか。ぜひ、里親さまに手伝っていただきたいし、早く里親さまに会いたいです。私は、里親さまと一緒に、里親さまの国の人々の悲しみを分かち合いたいです。日本が一度にたくさんの災害を耐え忍ばなければならないことを、とても悲しく思います。里親さまと周りの方々が、このような大きな損失を受けていないことを願っています。けれど、一方では日本と日本政府の被害の処理能力にとっても感服しています。とても冷静で、巧みで賢明です。それに、ひとりの子どもの話に、とても驚きました。食料の配給を受け取るた

めに並ばなければならず、ある人が、子どもがおなかを空かせているだろうとパンをあげました。でも、その子どもはお礼を言ってパンを箱に戻しに行つて、再び列に並び自分の順番を待ちました。これが、私の目的を具体的にした理由です。

私と家族は変わらず元気です。家から離れて勉強しているので、祖母、母、妹を思い出します。私は家族が大好きです。だから、なおさら一生懸命勉強する決意です。今年は去年より良い成績でした。これからも頑張ります。いつも支援してください。ありがとうございます。とてもうれしいです。

里親さま、お返事をくださいね。里親さまに会いたいです。里親さま、ご家族の皆さん、お元気で。

いつも愛情を感じています

ゲン・ティ・ホン

里親さま！ お元気ですか？ 里親さまに手紙を書けることがうれしく誇らしいです。私を信じ、将来に希望を与えてくださった里親さまに本当に感謝し、里親さまを大切に思います。いつもそばにいて、困難を乗り越えて勉強するために頑張れるよう応援し、慰め、励ましてくれる里親さまに感謝しています。私の望みは、いつか里親さまに会って、母親が娘にするように手を取り胸に抱いていただくことです。いつも遠い地からの愛情を感じ、どれほど幸福か分かりませんが、私は頑張つて良い成績を取れるように、自分を駆り立てています。小学4年生だった女の子は、大学3年生になりました。時間がたつのはとても早いです。私の時間は、いつも里親



さまと一緒に、励まし、慰めてくださいました。私はとても感謝し、里親さまを尊敬し憧れています。里親さま、家族、親しい人々、友だちなど、いつも私に関心を持って、励ましてくれた人たちを裏切らないよう、もっと頑張つて勉強を続けることを約束します。

里親さま！ 今学期の成績をお知らせしますね。とてもうれしく、誇らしいことに、今学期総得点はとても良くて、ハノイ建築大学で一番高い奨学金をもらうことができました。また、私は積極的に論文テーマの研究をし、今はもうすぐ提出です。その他、大学の数学・コンピュータークラブの活動や、大学の献血にも積極的に参加しています。私は1分1秒止まることなく、自分自身を鍛えています。このような良い結果を残せました。いつも応援し、成長し、より良くなる条件を作ってください。里親さま、何千回もお礼を申し上げます。もっと頑張つて、もっと良い成績を取り、道徳修養をすることを約束します。

里親さま！ この3月、日本は地震と津波がありましたね。津波に襲われた所では、非常に多くの人々が亡くなり、家々が破壊され、人々は食べ物も、水や電気もなくなつてしまいました。生き残った人たちは、連絡のしようもなくなりました。ニュースや新聞記事を見聞きして、私は里親さまとご家族が影響を受けたかどうか分からず、とても心配です。里親さまに連絡し、皆さんがどうしていらっしゃるか知りたいです。ただ、里親さまとご家族、日本の皆さんが、無事であることを願うだけです。この地震と津波で、親しい人を亡くした人々にお悔やみと、お見舞いの言葉を届けたいです。日本にもう二度とこのような天災が起こらないことを心から祈ります。こちらでは、私や他の学生たちは、物質的には何もありませんが、共感を持っていつも傍らにいて、希望の心を持っていつも日本人と共にいます。日本が復興し、日本人が

災禍を乗り越え、生活を取り戻すことを心の底から願っています。この手紙を読むとき、遠いベトナムには、心配して里親さまからの連絡を待っている、里親さまを敬愛する私がいいます。

終わりに、里親さまとご家族がいつもお元気で、平和で、幸運に満ちていることをお祈りします。

世の中の役に立つ人になりたい

ゲン・ティ・カム・トゥ

里親さま、お元気ですか？ ご家族の皆さんもお元気ですか？

私たち家族は変わらず元気です。里親さまから奨学金をいただくようになって、私はとてもうれしいです。勉強の道の頂上まで行くためのお金があるからです。私の住んでいる村は詩のように美しいです。朝はたくさん木々の元、澄んだ空気の中で運動したり、深呼吸したりできます。夜は座つてシラサギなどの小鳥たちが、巣に帰るために飛び立ったり、下りてきたりするのを眺めます。私の村はとてもきれいで、すがすがしいですよ。村の人たちは意識が高く、誰もゴミを捨てたりしません。もし、ゴミを捨てたりしたら、空気が汚れることを知っているからです。

日本では桜の花が咲くのですよね？ きつととてもきれいでしょうね。私の国ではテトに梅の花が咲きます。北部では、桃の花が咲きます。私は、小さい頃から大きくなった今まで、心の中に夢があるんですよ。それは、家族、里親さま、里親さまの家族が私が生きている間ずっと生きていてくださることです。でも、誰もずっと生き続け



ることはできませんよね。ですから、これは夢ですね。

私の夢は、大きくなったら世の中の役に立つ人になることと、家族を手助けできるようにすることです。これはいいですよ。そして、母、里親さま、先生をがっかりさせないように頑張ることを、私自身と里親さまに約束します。

終わりに、里親さまがご健康で長生きなさることをお祈りします。毎日幸運で、いい日になるように願っています！

学校に通える幸せ

ゲン・ティ・ティン・トウイ

いつものように、まず里親さまとご家族のご健康をお慶びします。私のこちらでの生活は、おかげさまで楽しさに満ちています。

毎日起きると、それは幸せな



日です。学校へ行って、有意義なことを学べるからです。それに、友達と遊ぶこともとても楽しいです。

けれど、夏になるととても暑くて、誰もみな、我慢できません。でも、私はその暖かい日差しと親密になりました。けれど、晴れた空を見るたび心が動きます。父を思い出して、目頭が熱くなります。誰が人生を自分の望む通りにできるでしょうか。私にもできません。父親からの愛がないことは、満ち足りた心を作りません。新学年の初めの何日かは、両親が学校へ送ってくれますが、私や一部の生徒はそうではありません。このことは自分の子どもを愛する一部の父母たちの関心を引き、心配させるようです。しかし、なんととっても、私には母がいます。母は私の大きな原動力です。よくないことがあっても、母はいつも慰め、応援してくれます。毎日、母が額に汗して働いているのを見えています。もっと母が愛しくなります。足りないものを補うためもっと勉強しなければなりません。けれど、母のお金だけでは、私を育て、勉強させるのに十分ではありませんでした。青葉奨学金をいただくようになってからは、学費は十分になりました。学校に通

えることは、楽しいことです。学校の教室で学ぶ有益なことは、人生に対する精神の窓を開ける鍵のようなものだと思います。

もうすぐ2学期の試験です。これからしばらくは、どの学生にとっても大変な鍛錬の日々です。私にとってもそうです。里親さまの愛情を裏切らないように、頑張って一生懸命試験勉強をします。勉強して良い結果が出るようにと思っています。ベトナムには「水を飲むときはその水源を思い、果実を食べるときは、その果樹を育てた人を思う」という言葉があります。これは尊い伝統です。ベトナム人の素晴らしい資質です。ですから、私は奨学金をくださった方のことを忘れません。

終わりに、里親さまとご家族のお幸せをお祈りします。



元ベトナム人留学生が東北地震支援でフォーの炊き出しを行いました

(本文と写真とは関係ありません：編集部)

●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2011年5月

2011年6月

2011年7月

2011年8月

春の木運動

*お願い：通信送付の際の封筒宛名に、里親会員と一般会員になられている方には、会員番号と最終入金日が記入されています。年会費の納入をお忘れなきよう、お願いします。

◆ベトナム子ども基金会員募集！（友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！）

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座にお願いいたします。**NPO化で口座番号が変わりました**

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ)：トクヒベトナムコドモキキン
里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

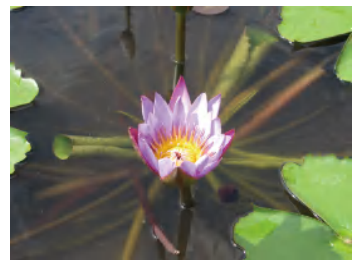
黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

◆事務局だより

連日の猛暑も落ち着き、秋の虫の鳴き声が聞こえるようになりましたが、皆さまお変わりありませんか。このたび、事務局はアジア文化会館の別館建て替え計画(予定)により、これまで別館にありました事務所を、8月26日付で本館2階125教室に移動しました。52号に写真付きで狭いと紹介した部屋から、倍以上の広さになり、これまで1人ずつ交替で事務所を使用していましたが、事務作業や、発送作業を同時に複数で行うことができるようになりました。パソコンや本棚など以前使用していたものと併せて、最低限の事務用品はそろえましたが、もし皆さまのお手元に、現在お使いにならない電気ポット、カップ、そのほか事務所で使用できそうなものがありましたら、ご寄付をお願いいたします。なお東京23区内、千葉県内の場合は直接取りに伺いますので、ご連絡をお待ちしております。

現在、毎月第3土曜日実施の運営会議では、スタディーツアーに向けた話し合い等を行っております。8月の会議で、里子たちに対して子ども基金からも年に1度、応援メッセージとともに絵はがきを送ろうという提案がなされ、今後はがきを作成して青葉奨学会に奨学金支給時に配布してもらう予定です。応援メッセージは運営会議で考えた後、留学生にベトナム語への翻訳をお願いし、はがきの作成も事務局で行います。そのため、皆さまに日本国内で身近な場所や、旅行先などを撮影された風景の画像提供をお願いいたします。できるだけきれいに仕上げたいと思いますので、プリントされた写真ではなく、jpeg形式で保存されたファイルをメールに添付してinfo@v-c-f.orgまでお送りください。備品の寄付と併せてご協力よろしく願いいたします。(坂本)



ベトナムスタディーツアー2011のご案内

今年のベトナムスタディーツアーは下記の日程で行います。9月現在の参加者は9名です。航空チケットが確保できる限り、ぎりぎりまで参加可能ですので、参加ご希望の方はお早めにご連絡ください(参加時期によってチケット代の値上がりをご容赦ください)。

期 間 11月19日～26日の7泊8日(帰途機中泊)

訪問地 ホーチミン(11月19日～22日)、ハノイ(11月22日～25日)

内 容 里子個別訪問、里子との交流会、学校・施設訪問、観光など

予 算 約12万円(運賃、宿泊費、食費、ガイド代込み。ただし里子個別訪問費用は別途)

*このツアーでは、里子個別訪問以外は原則団体行動が主となります。個人での行動を主とした里子訪問旅行を別の機会にご希望の方は、別途ご相談いただければ現地での案内や紹介のお手伝いをいたします。